



土浦市のブランド力向上に向けて(天然うなぎの復活)



井坂正典 議員

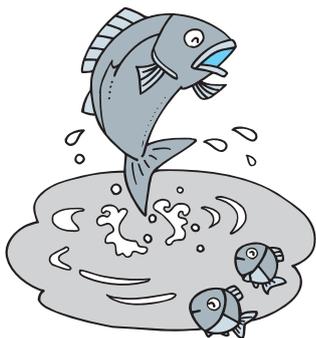
質問 かつて霞ヶ浦が天然うなぎの一大産地だったことに着目して、浄化だけでなく、ウナギを復活させて流域自治体、あるいは地域の活性化に寄与していこうと市民会館でサミットを行い、ウナギ復活への提案をしたり、地元の漁師を始め、霞ヶ浦の再生を願う皆さんとともに意見を交換して、浄化の一助にしようという企画であるが、これについての見解を伺う。

産業部長 市では、ウナギの漁獲量放流事業を約30年前から支援しており、昨年度も霞ヶ浦周辺の漁業協同組合等により、ウナギの稚魚を放流し、天然うなぎの復活に努めている。国土交通省では、多様な生物の成育場を確保するため、河川環境の改善を目的に、常陸利根川水門脇に魚道の設置工事を進めており、今後、ウ

ナギを始め多種多様な魚類が霞ヶ浦によみがえることを期待している。さらには、霞ヶ浦の水環境の改善に向けて、当水門の有効運用が図られれば、ウナギ等魚類の漁場環境も改善され、地域経済の振興につながるものと考えており、議員からのサミットを契機として、霞ヶ浦に天然うなぎが数多く生息する環境が復活し、湖のイメージアップや地域の活性化に結び付くことを期待している。

(掲載以外の質問事項)

- ・平成23年度市政の運営方針と主な施策の概要についての修正について
- ・土浦市のブランド力向上に向けて
- ・バリアフリー化に向けた取り組みについて
- ・放射能汚染対策について



CSR(企業の社会的責任)と実績



福田一夫 議員

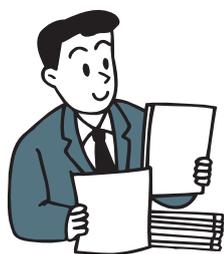
質問 地域密着型CSRは、企業が地域社会や消費者と親密性を深める結果、業績の向上を図れることに加え、地域でも雇用や納税、取引の増加への期待の他、環境や文化などの面でも活性化が図れるが、土浦における企業の社会的貢献、社会的責任の実際、現状と実績について、今回の震災の対応を含めて伺う。

産業部長 茨城県では、大規模小売店舗の地域貢献活動に関するガイドラインにより、地域貢献活動計画書の提出が義務付けられており、地域の実情に合わせた社会貢献に対する具体的な取り組みの計画書が作成され、本市においても4件の計画書が提出されている。かすみがうらマラソン大会においては、コースに隣接する日本を代表する企業からの特別協賛の他、グループ会社の従業員によるボランティア

活動を始め、本大会の広報活動についても、グループ企業を挙げての取り組みを受けている。さらに、産業祭においても、市内工業団地の立地企業による科学実験教室の開催など、独自企画の取り組みも行われている。

今後のCSRの可能性では、今般の大震災において、福島県からの避難者を対象として、入浴施設を提供してくれたスポーツクラブの他、地域防災協定を締結している企業はもとより、未締結の企業からも多くの支援物資の提供を受けたことなどから、地域密着型CSRが定着しつつあると考えており、企業と地域社会や消費者との関係が密接になり、地域活動の活性化につながると考える。

- (掲載以外の質問事項)
- ・CSR(企業の社会的責任)について
 - ・市立博物館の開閉館日について



● 議会報編集委員会 ●

委員長	寺内
副委員長	吉田
委員	久松
	海老原
	川原
	福田
	一明
	夫郎
	千鶴子
	充



----- Tsuchiura City Assembly News -----

市議会の模様は、土浦ケーブルテレビで
議会初日翌週の月曜日から、
午後3時~4時まで
順次放送予定です。